

【看護福祉リハビリテーション学部 福祉リハビリテーション学科 言語聴覚専攻】カリキュラムマップ(2024年度入学生用)

授与する学位:学士(医療福祉学) ディプロマ・ポリシー																	
知識・理解	幅広い視野	DP1:人、自然、環境、社会、地域、国際について幅広い教養を有している															
		DP2:言語聴覚障害分野において適切な知識や理解、そして技術を有している															
汎用的能力	基本的能力	DP3:幅広い視野をもって合理的・批判的に判断できる															
		DP4:適切な日本語運用力を修得し、活用することができる															
		DP5:母語以外の特定の外国語について基礎的なスキルを修得し、活用することができる															
		DP6:基礎的ICTの知識・スキルを修得し、適切に活用することができる															
態度・志向性	豊かな人間性	DP7:数的データを含む多様な情報を適切に収集・分析し活用することができる															
		DP8:仏教精神を理解し、自らの理解・判断・行動を見つめ直す姿勢を身につけている															
	態度・志向性	DP9:多様性の尊重と共生の精神を有している															
		DP10:日本の伝統文化を深く理解し、その成果を自分の生活に生かすことができる															
統合的な学習経験 と創造的思考力	応用的能力	DP11:高い倫理観を持ち、思いやりの心を忘れずに他者と接することができる															
		DP12:言語聴覚障害分野の知識・理解・技能等に基づき、対話や議論を重視し、他者・他文化との相互理解に努めることができる															
		DP13:言語聴覚障害分野の知識・理解・技能等を活用して、社会に参画する態度を有している															
		DP14:自らの生涯を見通す視野を持ち生涯を通じて学び続け、キャリア形成をする力を備えている															
		DP15:現代社会の諸問題を解決するために、言語聴覚障害分野の専門的知識と技能を活用し、問題解決に実践的に取り組むことができる															
学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
包括的ヘルスケア論	包括的な視点で地域・在宅で生活している人々に対する保健・医療・福祉の施策の動向を学ぶ	1. 我が国の少子高齢化に伴う問題を理解する	○								○		○				
		2. 地域包括ケアの理論と制度を学ぶ	○								○		○				
		3. 地域包括的ケアの実践を学ぶ				○						○			○		
生命倫理	人の生命の尊厳と基本的人権、尊厳死などについて学び、言語聴覚士として基本的倫理原則・倫理理論を学ぶ	1. 人としての命の尊厳と基本的権利を対人援助職の視点から理解できる				○				○					○		
		2. 対人援助職として倫理の原則、生命・医療倫理を理解している								○			○		○		
		3. 日常生活の場の問題解決を倫理的判断のもととして考察できる				○						○				○	
ターミナルケア	ターミナル期の問題を理解し、現状を学んだうえで、いかにターミナル期の患者に向き合うかについて、学修する	1. ターミナル期の患者が抱える問題を理解する								○	○		○				
		2. ホスピス運動や緩和ケアの現在について理解する				○						○		○			
		3. コミュニケーションスキルや死生観(基本的な心構え)などを学ぶ	○								○		○				
専門職の連携(基礎)	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種の役割を理解する	1. 取得を目指している資格は、他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い、人の命を救う専門職としての資格であることを理解する				○								○	○		
		2. 地域における包括的なヘルスケアシステムを担う他専門職を理解する										○		○	○		
		3. 他職種の視点を通して、将来についてのより明確な自己像を描けるようになる												○	○	○	
専門職の連携(応用)	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総合的な学習を行う	1. 他職種間での専門的かつ高次元コミュニケーションをはかれるようになる					○						○				
		2. 実例を取り上げることで、より具体的に実践的な援助方法を理解する					○							○		○	
		3. 専門職としての自己意識を高め、資格取得に向けての意欲向上を目指す					○							○		○	
仏教と医療福祉Ⅰ	建学の精神に基づき、社会福祉やリハビリテーションの領域を「医療福祉」ととらえ、仏教と医療福祉の関係を考える。医療福祉の側面からは、その価値観と仏教信仰の調和的関係構築が課題になる。こういった仏教と医療福祉の協働について学ぶ	1. 建学の精神に基づく対人援助の基本を理解する								○	○		○				
		2. 仏教と医療福祉の関係を理解する									○	○		○			
		3. 仏教と医療福祉の協働について理解する									○	○		○			
仏教と医療福祉Ⅱ	医療福祉の現場において対人援助を行う場合、仏教に基づく人権尊重の価値観は、援助の質に対して影響を与えるものである。より高い専門性を備えた対人援助職のあり方について、実際の事例を参考に学生同士の学び合いから理解を深めていく。	1. 仏教に基づく人権尊重の価値観を修得する								○	○		○				
		2. 高い専門性を備えた対人援助職のあり方を理解する									○	○		○			
		3. 実際の事例から学生の学び合いを通して専門職間の連携を理解する									○	○		○			
医療福祉連携論	近年、医療から介護制度を含む福祉へのシームレスな連携が求められている。医療と福祉について理解を深め、それらの連携の実際と理想を学ぶ	1. 医療の実際について理解する				○						○				○	
		2. 福祉の実際について理解する											○			○	
		3. 医療と福祉との連携の実際と理想を理解する												○		○	
日常生活支援学	ADLの概念、リハビリテーション医学における重要性を学び、日常生活活動の範囲・より幅広い日常生活関連動作、QOLなどの概念との関係も理解し、対象者の日常生活を支援する専門家としての視点を学ぶ。	1. ADL・APDL・IADL・QOLの概念や範囲を説明できる。				○	○										
		2. ICIDH、ICFについて説明できる。					○	○								○	
		3. 人の生活におけるADLとその他の活動との関係性重要性を説明できる。					○										○
地域災害リハビリテーション	災害時の医療活動が行政の中で、どのように位置づけられ、その中のリハビリテーション支援活動のあり方を理解する。また、災害時のリハビリテーション支援活動における作業療法士の役割を学ぶ。	1. 災害時のリハビリテーション支援が行政の中でどのように位置づけられるのか理解できる。				○	○										
		2. 災害フェーズに合わせたリハビリテーション支援のあり方を説明できる。					○	○									
		3. 災害時のリハビリテーション支援活動における作業療法士の役割を理解する。					○	○									
障害者福祉	社会福祉士及び精神保健福祉士として、障害者福祉サービスのこれまでの歴史、社会背景を通じて、現状の障害者福祉の意義と課題について習得できるようにする	1. わが国の障害者に関する歴史と施策に関して理解し、必要な行動がとれる					○				○			○			
		2. 障害者に対する福祉サービスの種類、目的、その効果について理解し専門職を目指す者として活用できる													○	○	
		3. 障害者福祉サービスと他の福祉サービスと比較し、総合的に理解できる													○	○	○
基礎ゼミⅠ	言語聴覚士を目指した学習の導入として、自ら考え学ぶという態度、学力養成のための基礎的な能力を身につける	1. 自校史や建学の精神である仏教精神を理解している						○			○		○				
		2. 言語聴覚療法を自立的に学習することができる						○		○	○						
		3. 個人面談による生活への応用や学生間・教員の人間関係を形成している	○									○	○				
基礎ゼミⅡ	言語聴覚士を目指した学習の導入として、自ら考え学ぶことと、自らの言葉でまとめ発表する力を身につける	1. 自校史や建学の精神である仏教精神を理解している							○			○		○			
		2. 言語聴覚療法を自立的に学び発展させることができる							○	○	○						
		3. 他者の意見を尊重し、自らの意見を述べることで、人間関係をさらに発展させる	○										○	○			
言語運用と数的処理の基礎	言語聴覚士に必要な言語運用能力と数的処理の力を養う	1. 日本語文法を理解し、それに従って文章を読解・作成できる	○				○										
		2. 数的処理の基礎を理解し、神経心理学的検査の処理ができる						○		○							
		3. 言語訓練・実施に必要な言語運用と数的処理の力をつける	○								○						
教育学	教育とは何かについて、学問・制度・実践の側面からその理解を深める。そのことを通じて、教育に対する各々の考えを持ち、教育学的思考様式を身に付けることで、	1. 教育の意義と目的を理解する	○			○						○					
		2. 教育の歴史の変遷について学び、教育に関する思想を理解する	○										○				

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
	言語聴覚士としての学びの基礎を 培う。	3. 教育を支える主要な制度について学び、教育実践の様々な取り組み を理解する	○		○						○						

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
			○：DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
健康カウンセリング	対人援助職としての対人関係の基礎と、実際の臨床に生かせる技術を学ぶ	1. 対人関係の基礎を理解する			○						○			○			
		2. カウンセリングに必要な基礎的技術を理解する		○							○	○					
		3. 実際の臨床に生かせる技術を習得する			○								○				○
社会と統計	社会調査の基本的事項と意義について学ぶ。また、社会調査の歴史や実際の調査例についても学び、社会と統計との関わりについて理解を深める	1. 社会調査の目的と意義について理解する	○						○								
		2. 社会調査の歴史や調査倫理について理解する							○								
		3. 実際の調査例をもとに、量的調査、質的調査について理解する							○						○		
社会保障制度・関係法規	社会保障制度の思想と、言語聴覚士に関する法律・制度を学ぶ	1. 社会保障制度とは何かを理解する		○							○	○					
		2. 社会保障制度の思想を学び、実際の法律を理解する			○						○					○	
		3. 言語聴覚士に必要な法律・制度を学ぶ		○										○	○		
地域言語聴覚療法	言語聴覚臨床の基盤となる社会福祉、リハビリテーション、学校教育に関する基本的知識を習得する。さらに、言語聴覚療法の業務に関する、自立支援、障害支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携の実践能力を養う。	1. 地域で生活する障害児・者や高齢者の支援に関連する社会福祉、医療、教育制度やサービス、機関についての基礎的知識を習得する											○	○	○		
		2. 地域言語聴覚療法の概念と歴史的背景、実際について理解する											○	○	○		
		3. 地域包括ケアシステムにおける言語聴覚士の役割と多職種連携の実践を学ぶ												○	○		○
栄養サポート論	障害者から患者に至るまでを対象とする健康の維持・増進、疾病予防、治療を目的とした栄養学的サポートについて学ぶ。特に、ライフステージ毎の課題に応じた栄養サポートを理解する	1. 発達期の栄養学的サポートについて理解する		○										○		○	
		2. 高齢者に対する栄養学的サポートについて理解する												○		○	
		3. 傷病者・障害者に対する栄養学的サポートについて理解する		○										○		○	
生物の基礎	言語聴覚士になるためには、これから4年間をかけて生物学の知識が欠かせない教科を複数マスターしていなければならない。本講座では、今後学ぶことになる生理学、薬理学、栄養学をはじめとする、人体の構造と機能、疾病の成り立ちに関連する科目の土台となる生物学の基礎知識を身につけていく。	1. 細胞の機能と遺伝情報について理解している。	○	○	○												
		2. 体内における物質代謝を理解している。		○	○	○											
		3. 多細胞生物である人体がどのようにして機能しているのかを理解している。		○	○	○											
臨床医学総論	言語聴覚士を目指した医学学習の導入として、臨床医学について総合的に学ぶ	1. 臨床医学の分野等を網羅的に理解する		○	○												○
		2. 臨床医療の現場で求められる医の倫理を理解する			○							○			○		
		3. 医療人としての基本を学習する			○						○			○			
人体の構造と機能Ⅰ	細胞は生体を構成する基本単位であり、同様の細胞が集まって組織を形成し、それらが集まって器官を、さらに臓器を形成している。これらが統合的に機能することにより、生体は正常な調節機構と恒常性を保持できる。講義では正常な人体の構造および機能を系統的に学習し、臨床医学を学ぶための基礎知識を身につける。	1.人体解剖学につき学習する		○	○	○	○										
		2.生理学につき学習する		○	○	○											
		3.疾患の理解につながるよう、臨床的視点を学習する		○	○	○											
リハビリテーション概論・医学	医学的リハビリテーションで行われる神経学・生理学の評価やADL評価を理解し、各疾患に対するリハビリテーションについて理解を深めていく	1. リハビリテーションの概念と各職種の役割を学習する		○	○									○			
		2. リハビリテーションに用いられる評価方法を学習する			○	○									○		
		3. 各疾患に対するリハビリテーションの治療方法につき学習する													○	○	
音声・言語・聴覚医学Ⅰ（呼吸発声発語系）	人間の言語コミュニケーションの基盤となる呼吸・発声・発語（構音）器官の構造と機能、生理・病理的基礎知識を学ぶ	1. 模型など視覚教材を使用して呼吸・発声発語器官の構造と機能を学習する		○											○		○
		2. 音声が生じるように産生され、疾患によりどのように障害されるかを理解する		○											○		○
		3. 講義で得た知識を言語聴覚療法の臨床に活用する基盤を養う			○											○	○
音声・言語・聴覚医学Ⅱ（聴覚系）	聴覚障害の臨床実践に必要な基礎知識を体系的に履修し、その上で聴覚障害児・者に対する言語聴覚士の臨床実践の意義と役割について求められているのかを学ぶ。障害の発見・評価・指導実践に不可欠な諸検査等、支援と指導の方法概論について学ぶ	1. 聴覚障害の臨床実践に必要な基礎知識を理解する		○		○								○			
		2. 障害の発見・評価・指導実践上、必要な聴覚検査と情報収集のあり方について基本的知識を身につける							○						○		
		3. 発見から(リ)ハビリテーションに至る流れ・概要を理解する							○								○
音声・言語・聴覚医学Ⅲ（神経系）	音声・言語および聴覚に関与する人体構造のなかで、中枢部位にあたる脳と神経系の解剖と生理および障害について学ぶ	1. 求心性聴覚神経路、遠心性構音運動神経路について理解する		○	○												○
		2. 聴覚外周系と小脳路系について理解する		○	○												○
		3. それぞれの部位の損傷によって引き起こされる障害を理解する		○	○												○
言語発達学	出生前から聞き分け力を持ち、新生児期から積極的なコミュニケーション行動をとるなどの言語発達、幼児期から話し言葉の完成とされる学童期までの言語発達について学ぶ	1. 言語発達を考えるための4つの理論について理解する			○									○	○		
		2. 包括的に言語発達を捉えることができるようにする				○								○	○		
		3. 言語発達障害者を理解する基礎を作る			○									○	○		
生涯発達心理学	生物学的、心理的、社会的な側面から一生にわたって変化・発達し続ける人間の存在について学び理解する	1. 人の発達を、誕生から死までのスパンで理解する												○	○		
		2. 人生の長寿化、多様化について、生涯発達心理学の立場から学ぶ			○									○	○		
		3. 生物学的、心理的、社会的な側面から人間の発達を学ぶ			○									○	○		
認知・学習心理学	言語聴覚士として身につけておくべき認知心理学と学習心理学の基礎を学ぶ。	1. 学習心理学における主要な学説の成立過程と内容について理解する	○						○								○
		2. 認知心理学台頭の背景と理論について理解する			○				○						○		
		3. 学習心理学と認知心理学の言語聴覚障害学分野における臨床応用について理解する			○						○			○			
臨床心理学	臨床心理学の基本的な概念や考え方について学ぶ	1. 臨床心理学の基本的概念を理解する			○						○		○				
		2. 種々の心理療法を学ぶ			○						○		○				
		3. 心理臨床面接での応答や姿勢を学ぶ			○						○		○				
言語聴覚障害学概論	4年間の言語聴覚専攻課程の導入として、言語聴覚士が治療対象とする言語、コミュニケーション、認知あるいは摂食・嚥下障害を体系的に学ぶ	1. それぞれの障害の病態や発現機序を理解する		○										○	○		
		2. 情報収集・検査・評価・診断→治療を科学的に行うことを理解する			○									○	○		
		3. 言語聴覚療法を体系的に理解する												○	○		
内科学	この科目では、成人期の一般的、及び言語聴覚士とのかわりつが予想される疾患を対象として講義を行う。そして、その病態及び治療法について述べる。内科疾患を有する患者に対しては、言語聴覚士として、最低限の病態に即した基本的な対応（リスク管理を含む）ができることを目標として、講義を進める。	1. 各臓器の正常な機能について理解する		○	○								○				
		2. 各臓器の病的状態、その原因、仕組みについて理解する			○	○							○				
		3. 病的状態に対して、どのような予防、治療法があるかを理解する		○	○								○				
小児科学	この科目では、小児の成長・発達の過程や、小児期の疾患の中で言語聴覚士とのかかわりが予想される疾患を主に取り上げ、その病態と治療に関する講義を行う。疾患や障害を有する小児に対して言語聴覚士の専門性を発揮する際に、病態に即した基本的な対応（リスク管理を含む）ができることを目標とする。	1.小児の成長と発達を学ぶ		○	○								○				
		2.子ども特有の生理や病理、疾患、治療について理解する		○	○								○				
		3. 病態に即した基本的リスク管理を学ぶ		○	○								○				
	聴覚・嗅覚・味覚などの感覚器、ならびに食くはなす（摂食・コミュニケーション全般）に関連する部位の疾患を扱う。これらの障害は OOL に重大な影響を及ぼす一方で、各機	1. 聴覚器、咽頭・喉頭の構造・生理・疾患についての基礎知識を理解する		○	○									○			
		2. 聴覚・音声・嚥下障害についての検査法・評価法について理解する												○			

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
耳鼻咽喉科学	病は、解剖学的にも生理学的にも体系的、正確な理解を要する。言語聴覚士として、耳科学、鼻科学、口腔咽喉科学、喉頭科学各領域の解剖学、生理学を理解し、各疾患の理解と、全身疾患における、耳鼻咽喉科疾患のかかわりを理解する。	3. 聴覚障害・音声障害・嚥下障害の(リ)ハビリテーションでの支援方法についての基本的知識を身につける		○	○									○			
形成外科	形成外科学の分野で、構造と機能、疾患と治療法について、基礎的な理解と、言語聴覚士としての臨床場面に必要な知識を得る。 形成外科の主要な分野である組織移植、外傷、熱傷、口唇口蓋裂および頸縁疾患、顔面・頤面の先天異常、皮膚外科、頭頸部の再建手術などについて学ぶ。特に本講義では口唇口蓋裂とその頸縁疾患を中心に必要な事項を教授する。	1. 構造と機能を学ぶ 2. 疾患と治療法について学ぶ 3. 言語聴覚士としての臨床場面に必要な知識を得る		○	○									○			
	精神医学においては、統合失調症スペクトラム障害、抑うつ障害、双極性障害、不安症群、強迫症、パニック障害、神経発達症、神経認知障害群について重点的に解説する。3および4年次における臨床実習や、言語聴覚士となってから活動するうえで不可欠な医学的基礎を習得するための授業である。	1. 代表的な精神疾患の症候学を専門用語を用いて説明する。 2. 病態に応じた治療法の選択肢を理解する。 3. 病態と脳機能の関連について理解する。	○	○	○												
	脳および神経系の正常構造と機能を概説したうえで、言語聴覚士に必要な脳神経疾患および精神疾患の診断と治療について講義する。脳神経疾患のなかで言語聴覚士が関わる頻度が最も高いのが脳血管障害で、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血などがふくまれる。次に多いのがアルツハイマー病やパーキンソン病などの神経変性疾患である。これら脳血管障害や神経変性疾患の臨床症状と治療法については重点的に解説する。	1. 脳および神経系の正常構造と機能を学ぶ 2. 脳神経疾患および精神疾患の診断と治療について学ぶ 3. 言語聴覚士としての臨床場面に必要な知識を得る	○			○									○		
臨床神経学	口腔の構造と機能ならびに構音・摂食嚥下障害と関連のある疾患と治療法について学ぶ。	1. 構造と機能について知識を得る 2. 構音障害や摂食嚥下障害を引き起こす疾患について理解する 3. 手術や補綴的処置などの治療法について知識を得る			○									○	○		
	言語障害や認知機能障害の種類や重症度を評価するために、言語聴覚士は患者さんに対して様々な心理検査を実施する。心理検査には、聴力検査などの主に感覚度を扱う精神物理学的検査から、知能検査や性格検査などのより複雑な精神機能を対象とした検査まで、様々なものが存在する。本講義では、精神物理学的検査の検査法、尺度構成法、得られたデータの要約に必要な記述統計学、2つ以上の集団を、その母集団を推定したうえで比較する推定統計学、新しい尺度を作る際に必要な知識、といった点について重点的に講義を行う。言語聴覚士の仕事を行うにあたり、心理検査は、患者の障害の種類や程度を測定するために重要であり、本講義では心理検査がどのように作成され、臨床現場でどのように利用されているかについて理解することを目標とする。	1. 心理物理学的測定法について理解する。 2. テスト理論と尺度構成法について理解する。 3. 検査データの統計学的解析法を理解する。	○	○					○	○						○	
	最も複雑で高度な構造を持つ記号としての言語について学ぶ。具体的には、言語の基本的な構性単位と言語の単位、ある言語の音の仕組みを説明する音韻論、言語を組み立てる語の構造と性質を考える形態論、文の構造を考える統語論、言語と意味の関係を考える意味論、コミュニケーションにおける言語の使い方を学ぶ語用論、世界の言語と日本語の普遍性と多様性、社会の中の言語などである。さらに、これらについて、言語聴覚士としての必要性についても学ばなければならない。評価や訓練において患者様が関与する対象としての日本語について、理解しなければならない。また、失語症等の評価訓練における評価課題、訓練課題の設定に日本語に関する言語学的知識がどのように活用されるかを学ぶ。	1. 言語の基本的性質について理解する 2. 音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、文字論、社会言語学について理解する 3. 言語聴覚士としての必要性について理解する				○		○	○			○					
言語学	発声の仕組みに基づく音声の特徴と種類について学び、種々の発声を聞き分け、発音することを学ぶ	1. 音声の音響的性質と発声の機構を理解する 2. 音声要素の種類と体系の表記法を理解する 3. 音声の正確な聴取と発音することを理解する		○						○					○		○
音声学	言語聴覚士の職務を遂行する際に必要な音智に関する知識を学ぶ	1. 音の物理的性質について理解する 2. 音の聴覚知覚について理解する 3. 音声生成について理解する		○						○					○		○
音智学	聴覚心理学は、人間の聴覚に関わり、かつ音智学の物理的パラメータに関連した心理学的学問である。聴覚心理学の基本事項のうち、言語聴覚法の実習に従事する上で必要となる知識を習得し理解する。 聴覚心理学における基本的な用語と概念について学習する。物理現象としての音と聴覚の関係について体系的な理解をはかる	1. 音の物理的な変化と感覚(心理)との対応関係について、基礎知識を得る 2. 音智学の基本的な用語と概念について理解し、人間の聴覚機能との関連についての基礎知識を得る 3. 各種聴覚検査や補聴器適合において、言語聴覚士としての支援や指導の位置づけや説明ができる		○										○	○		
聴覚心理学	神経心理学の知見をベースに高次脳機能障害の中核をなす失語症の歴史や脳の古典的言語領域について整理する。さらに音声言語聴覚医学Ⅱ(神経系)で学んだ知識を復習しながら、言語の神経ネットワークについての理解を深める。以上の内容を理解したうえで失語症の責任病巣・言語症状・失語症候群・後天性小児失語症およびその評価と訓練について学ぶ。さらに、失語症のグループ訓練をはじめ、失語症者の心理的問題や社会参加などについて幅広く学ぶ。	1. 失語症状の定義を学ぶ 2. 失語症の随伴症状を学ぶ 3. 失語症の原因疾患、脳の損傷部位を学ぶ		○									○		○		
失語症Ⅰ	この授業では情報収集・検査・評価・診断・治療・再評価という実際の臨床方法を学ぶ。評価・診断では症候論や認知神経心理学的見方を演習形式で学習する。治療では刺激法、遮断除去法、機能再編成法、認知心理学的方法などを学習する。また、失語症者の心理的社会的問題や環境整備への支援など言語聴覚士としての役割についても学ぶ。	1. 評価・診断では症候論や認知神経心理学的見方を学習する 2. 治療では刺激法、遮断除去法、機能再編成法、認知心理学的方法などを学習する 3. 失語症者の心理的・社会的問題や環境整備への支援など言語聴覚士としての役割について理解する		○											○	○	
失語症Ⅱ	この授業では、高次脳機能障害の定義・種類、病徴症状、視覚認知の障害、視空間障害、聴覚認知の障害、触覚認知の障害、身体意識・病識認知の障害等について、その症状と病巣の関係を理解する。主たる検査方の概要を学び、リハビリテーション方法についても講義を行う。	1. 高次脳機能障害のそれぞれの定義や病態を理解する 2. それぞれの病態に対する評価方法を理解する 3. それぞれの病態に対する治療的アプローチを理解する	○			○							○				○
高次脳機能障害Ⅰ	この授業では、高次脳機能障害のうち、行為・動作の障害、記憶の障害、前頭葉の高次脳機能障害、脳	1. 高次脳機能障害のそれぞれの定義や病態を理解する 2. 高次脳機能障害のそれぞれの定義や病態を理解する	○			○							○				
高次脳機能障害Ⅱ			○			○							○				

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
高次脳機能障害Ⅱ	実態的症候、認知症、脳外傷等について、その症状と病態の関係を理解する。主たる検査方の概要を学び、リハビリテーション方法についても講義を行う。また、症例提示や国家試験問題についても言及し、高次脳機能障害演習につなげる授業とする。	2. それぞれの病態に対する評価方法を理解する		○					○					○			
		3. それぞれの病態に対する治療的アプローチを理解する			○								○				○

[illegible]

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号															
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで															
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15	
高次脳機能障害演習	高次脳機能障害「I」をテーマとして、各種検査法の実践を紹介し、学生自身がグループで検査を実践に行い、その検査法・採点法の習得を目指す。 検査法の種類が多いので、すべてを授業時間内にこなすことは困難と考えられる。したがって、教員の許可を得て検査機器を貸し出すこととし、各自で練習して習得することを求める。3年次の臨床実習（評価）、4年次の臨床実習（総合）には必要となるので、それまでに各種検査を繰り返し練習することが必要である。また、臨床場面での実際のイメージできるように、事例を提示できるような準備している。これに関しては守秘義務が発生するため、事例について授業時間以外で不用意に発言することを禁止する。	1. 高次脳機能障害検査の実践を学ぶ		○										○		○		
		2. 検査結果から、総合的評価が出来るようにする		○											○		○	
		3. 評価から、患者や家族への説明が出来るようにする			○						○						○	
言語発達障害学演習	言語発達障害者の臨床に用いる各種の発達検査や知能検査の特性を理解し、検査を実施し、結果を算出する方法を理解する。	1. 各検査の特性を理解する。		○											○	○		
		2. 各検査が実施できる。		○											○	○		
		3. 検査の結果をまとめる方法を理解する。		○											○	○		
発声発語障害演習Ⅰ（小児）	小児の構音障害の臨床の流れを演習で学ぶ	1. 問診・構音検査・構音器官の検査で情報を収集することを理解する		○											○	○		
		2. 評価と指導方針の決定について理解する		○											○	○		
		3. 構音訓練の技法を理解する。各種文書の書き方を理解する。		○											○	○		
発声発語障害演習Ⅱ（成人）	運動障害性構音障害及び音声障害について、情報収集－評価（検査）－鑑別診断－訓練プログラムの立案－訓練の実施という実際の臨床方法を学ぶ	1. 実際の臨床方法を演習し、ポイントを理解する		○	○												○	
		2. 検査・評価・診断法を、臨床場面を想定して理解する		○	○												○	
		3. ディスカッションを可能な限り行い、論理的に考え、説明できる力を育てる		○													○	
摂食嚥下障害学演習	摂食・嚥下障害について言語聴覚士が行う具体的な検査・評価・診断法について学ぶ。また、症状に対応した訓練、食形態や姿勢、食事介助方法、訓練環境上の危険管理等、臨床技術を習得することを目的とする。	1. 実際の臨床方法を演習し、ポイントを理解する		○												○	○	
		2. 検査・評価・診断法を、臨床場面を想定して理解する		○										○		○		
		3. 論理的に考え、実践できる力を育てる		○	○												○	
聴覚障害学演習	各聴覚検査と補聴器特性の測定と評価方法を演習を通して学ぶ。実際に検査装置、測定装置を操作し、種々の聴覚検査の検査方法と詳細・補聴器の周波数特性の測定などについて演習を行う。	1. 演習を通じて、各種聴覚検査技術や測定技術を身に付ける。		○				○								○		
		2. 聴覚や補聴器、補聴器の適合状態を評価する力を養い、実践力を高める		○				○										
		3. ディスカッションを可能な限り行い、論理的に考え、説明できる力を育てる		○		○	○									○		
画像診断学演習	画像診断学とは、人体の構造をさまざまな撮射を用いて検出し、臨床診断に役立てる医学の一分野である。3および4年次の病院実習において、また言語聴覚士となつてから関わることとなるが、脳神経系の疾患を患っている場合がほとんどであるので、それらの患者さんの脳画像、とくに頭部CTとMRIを撮影し、予想される病状を推測してリポート作成に活かすことが求められる。この授業では、医療で用いられる様々な画像・機能について概説し、うえで、中核神経の画像に重点を置いて病	1. 主要な画像診断法の特徴を理解する。	○					○	○									
		2. 言語障害を引き起こす神経疾患の画像的特徴を理解する。		○											○	○		
		3. 認知機能障害を引き起こす神経疾患の画像的特徴を理解する。											○			○		
言語聴覚障害学総合演習（検査・機器）	言語聴覚療法に必要な臨床心理・神経心理検査や聴覚検査機器等の機械・器具を概観し、最新の機械・器具についても学習する	1. 言語聴覚療法に必要な検査・機器について最新の知識を学ぶ		○												○	○	
		2. 代替コミュニケーション(AAC)や支援機器(AT)を用いることができる		○												○	○	
		3. 当事者のQOLを高める支援方法について学ぶ		○												○	○	
言語聴覚障害実習Ⅰ	この演習では学内の教員の下、言語聴覚障害者（成人領域）の症状について、情報収集（検査）・評価の流れを学習し、他の言語障害との違いを理解する。演習形式で様々な検査法や訓練法を理解し、実施できることを目標にする。	1. 言語聴覚障害者（成人領域）の症状について学ぶ		○												○	○	
		2. 情報収集（検査）・評価の流れを学ぶ		○	○											○		
		3. 様々な検査法や訓練法を理解し、実施できる力を育てる		○	○													
言語聴覚障害実習Ⅱ	対象者、スタッフとの円滑なコミュニケーションをはかるための基本的な対応について学習し、理解する。臨床に対する意識、コミュニケーションの基本となる共感的態度、コミュニケーションスキル、豊かな人間性など医療従事者としての基本的な態度やスキルを習得することを目標にする。	1. 円滑なコミュニケーションをはかるための基本的な対応について学習する		○	○	○										○		
		2. 臨床に対する意識を学ぶ		○	○	○												
		3. 医療従事者としての基本的な態度やスキルを習得する	○	○	○	○									○			
言語聴覚障害実習Ⅲ	3年次行った評価実習を踏まえ、患者を適切に評価、統合的に解釈、問題を把握し、再評価を含めた、その問題に応じた言語聴覚療法プログラムを設定することを学ぶ。特に総合実習なので、仮説設定、訓練方法の立案、訓練の実施・スキル、再評価、仮説検証・修正の流れを理解し、実践できるようにする。	1. 患者を適切に評価、統合的に解釈、問題を把握する力を育てる		○	○											○		
		2. 問題に応じた言語聴覚療法プログラムを設定することを学ぶ														○		
		3. 仮説設定、訓練方法の立案、訓練の実施・スキル、再評価、仮説検証・修正の流れを理解し、実践できるようにする。		○	○	○										○		
言語聴覚障害実習Ⅳ	演習を通じて、対象患者の実習の過程で言語聴覚士の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、言語聴覚療法実施上の総合的な能力を高める。また、対象患者の心理的問題や家族が抱える悩みを理解し、共感する態度を学ぶ。そして、言語聴覚障害を抱えながらも生きていく対象患者を支援し、共感する態度を学ぶ。	1. 言語聴覚士の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解する		○	○	○												
		2. 言語聴覚療法実施上の総合的な能力を高める													○			
		3. 心理的問題や家族が抱える悩みを理解し、共感する態度を学ぶ		○	○	○										○		
言語聴覚療法管理学	職場管理、言語聴覚療法教育及び職業倫理を含む。 マネジメントの基本概念とプロセス、職場環境、職業倫理、生涯教育、法的責任、多職種連携、労務・指導におけるマネジメントについて習得する。	1. 言語聴覚士の職業倫理と法的責任について理解する														○	○	○
		2. 言語聴覚士の業務の遂行において、生涯教育が重要であることを理解する														○	○	○
		3. 言語聴覚士の労務及び指導におけるマネジメントについて理解する														○	○	○
認知症特論	認知症は高齢化社会において重要な課題である。認知症の症候学、診断学、治療体系につき概説する	1. 総論について、診断学の歴史と最近の知見を学ぶ	○				○					○						
		2. 認知症の症候学について学ぶ				○	○											
		3. 認知症の治療体系について学ぶ								○				○				○
摂食嚥下障害学特論	現場での臨床業務に役立つ内容について、各講師が、それぞれの専門とする領域における最近の知見を交えて講義する	1. 脳卒中や神経難病による摂食嚥下障害や、栄養サポートチームでの役割について学ぶ		○												○		
		2. 耳鼻科疾患による摂食嚥下障害や、手術療法について学ぶ		○														
		3. 口腔生理学に基づく摂食嚥下障害への対応や補綴について学ぶ		○													○	○
卒業研究	臨床現場に出た後も、言語聴覚学を学び、研究し続ける姿勢を養うことを目的とし、その第一歩となる研究論文を完成させる	1. 学生自身が興味を持った研究テーマを選択し、そのテーマに合った研究デザインの作成を行う	○														○	
		2. テーマに沿った資料収集、データ収集、分析法、表現法などを学ぶ		○													○	
		3. 出来るだけ発表とディスカッションの場を多く設け、議論しつ、論理的に、かつ科学的に研究を進める方法を学ぶ。			○												○	

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
			○:DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
専門ゼミⅠ	専門課程の幅広い内容について体系的に整理し、理解を深め、言語聴覚士という専門職として必要なスキルや知識を修得する	1. 臨床実習(評価実習)において臨床現場で修得した評価方法について説明できるようにする			○								○	○			
		2. 指導教官や他の学生とのグループ討議の中で理解を深める			○								○	○			
		3. 具体的な訓練プログラムの立案や実際の支援につなげていくことを学ぶ			○								○	○			
専門ゼミⅡ	本学を卒業後に言語聴覚士として臨床現場で内泊に働くスキルや知識を修得する	1. 臨床実習(総合実習)において臨床現場で修得した評価方法及び訓練方法、支援方法を説明できるようにする			○									○			○
		2. 指導教官や他の学生とのグループ討議や、個別指導の中でより理解を深める			○									○			○
		3. これまでの学習の中で不足している部分について、学習を反復して行い、現場での実践に繋げる			○									○			○
臨床実習(見学実習)1週間	臨床実習(見学実習)は、1年次に実施した1日見学実習で得た、言語聴覚士の現場での学びを、1週間を通して、より詳細に把握する	1. 言語聴覚士の現場での臨床を詳細に把握する		○	○									○			
		2. 見学内容と机上での学びを結びつけることで、専門科目の理解を深める		○	○									○			
		3. より具体的な言語聴覚士像を掴む		○	○									○			
臨床実習(評価実習)4週間	臨床評価実習は、言語聴覚障害を持つ子ども・成人の症状を評価・診断できることを目標とする	1. 症例の症状を正しく測定し、評価を行う		○	○									○			
		2. 評価から正確な鑑別診断を行う		○	○									○			
		3. 評価と診断に基づいて実施される言語聴覚療法を理解する		○	○									○			
臨床実習(総合実習)6週間	それまで学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに患者を介して言語聴覚療法評価・治療を体験する	1. 患者を適切に評価、統合的に解釈、問題を把握する		○	○									○			
		2. 問題に応じた言語聴覚療法プログラムを設定・実践し、さらに、再評価を行うことによって治療効果を検討する		○	○									○			
		3. 言語聴覚士の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、言語聴覚療法実施上の総合的能力を高める		○	○									○			